

令和6年度第3回厚木市子ども育成推進委員会 会議録

日 時：令和7年2月19日（水）午後2時～3時10分

場 所：厚木市役所第二庁舎11階会議室

出席者：子ども育成推進委員9人、健康こどもみらい部長、こども育成課長、
こども政策係長、こども政策係担当者

委員10人中9人出席（過半数）により会議は成立。
会議の経過は次の通り。

1 開会

2 挨拶

委員長、健康こどもみらい部長より挨拶。

3 案件

（1）厚木市こども・若者みらい計画について
事務局から資料1に基づき説明。

【質疑等】

委員

パブリックコメントの意見を見ると、お店が少ない、道路が悪い、道が暗い、公園の話など生活に関することが多く、子育てとはあまり関係がない意見が多いように思う。各部署が担当するというコメントで終わっているものが多いが、それでいいのかわかるようにはなかった。回された部署がどのようにコメントするのか気にはなった。生活環境に関することが多く、小・中学生がそのような目線で見ているのだというのは興味深い。せっかく、小・中学生が意見を提出してくれたので、もう少し具体的なコメントができると、今後、行政への参加意識が上がるのではないかと。自分の意見に答えをもらえると、きちんと相手をしてもらえているのだという意識付けになる。GIGAスクール端末でも市ホームページでもいいので、もう少し具体的な回答ができると良いのではないかと。

事務局

回答については事務局でもかなり悩んだ。こども向けに語り口調にすることも考えたが、回答はこども向けではなく、一般的なパブリックコメントとして回答することに意味があり、教育委員会等とも話して一般的な形とした。回答が難しい意見もあり、あっさりしているように受けとめられるのかもしれない。

委員

小・中学生に意見を聞くのは良い試みであり、これからこういうものに参画するのだという意識を育てていただきたい。

事務局

意見を募集するときも、一般のパブリックコメントと同じで、意見の回答は、市ホームページに載せ、個人には回答しないことにしたが、それだけではどうか

と思われたので、市ホームページのここに載っているという通知文を小・中学生には配る予定である。

委員

回答は、いろいろ説明がなされていて、工夫をされたのだろうと思う。

委員

自分たちが生活していて困っていることや思っていること、感じていることが素直に書かれており、ある意味、貴重な意見だと思う。

委員

市の役割のイメージとして、道路や公園のイメージがあるのかもしれない。

事務局

想定以上に運動する場所がほしいといった意見が多く、傾向がよくわかった。

委員

ショッピングモールや公園などの居場所づくりのイメージで、こどもはそういうものがあってほしい、あれば良くなると思って書いているのだと思う。こどもが書いたこれだけの量のものをきちんと質問文にして、それに回答していくのは大変な労力だったのではないかと。パブリックコメントからは外れているものも多いが、厚木市のまちづくりに関して他の部署で考えてもらおうと良くなるのではないかとこの中にたくさんあったように思うので、こどもの意見を活かしてもらえればと思う。

職務代理

以前相模川の健康広場にバスケットボールのコートがあった。地域で管理しており、新しいうちは人も多く来るが、リングがダンクシュートなどで老朽化し危ないので撤去してしまい、今は草が生えるままになっている。つくるのは良いが、こどもは遊ぶだけで管理には何も関係がない。健康広場のコートはこどものソフトボールチームに貸しているが、こちらは大人と一緒に、年3・4回の除草作業にこどもを連れてくるのが貸す条件になっている。コートの管理に自分たちも関わるのだということを教えないといけない。

委員長

教育ビジョンなどでも言っているアクティブラーニングにもなるのではないかと。

委員

居場所については、勉強や静かにできる場所と遊べる場所の両方を望んでいるのではないと思う。中学生のテスト期間には勉強に行く場所がなくてファミリーレストランなどに行ったりすることがある。パブリックコメント資料別紙の15ページ以降の意見を見ると、こどもの見識の深さを感じるものも多くある。例えば別紙309番の意見では、学校に行きたくなくなるような、行きやすくなるような取組をしてほしい、311番の意見では、いじめられる側だけでなく、する側のカウンセリングが必要ではないかと書かれており、大事な意見だと感じた。教育

相談については、困らないようにしてほしいということではなく、困ったときに相談できる場所や大人がいてほしいということを書いている。計画案 70 ページの数値目標の中に、「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思う子ども・若者の割合があるが、難しいことがあるから成長できる場面もあるのではないかと。テストで忙しかったり、友だちとけんかしたりといったうまくいかない場面から子どもが成長する場面ということも多くあると思うので、困ったときに相談できると思う割合にしたほうが計画の趣旨に合った形が得られるのではないかと。「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思う子ども・若者の割合は 51.5%と低く見えるかもしれないが、それはもしかしたら子どもの成長につながるような困難なのかもしれない。意見の中には、学校が大変だからもう嫌だというものはなくて、むしろ困ったときに相談したいという意見が多いので、それを反映するのであれば、数値目標の項目を変えることもあり得るのではないかと。

事務局

数値目標はパブリックコメントとして出している関係で、パブリックコメントで意見がないと変更は難しい。今後、アンケートなどを実施する際に、加えていきたい。

委員

目標の割合はどのくらいを想定しているのか。現状値に該当する年齢の者をそのままあてはめるのか。

事務局

5 年後に計画を改定する際、前年度にアンケートを実施する予定である。そのときに数値目標の項目を設問に入れてどうなったのかを見る形である。市の各計画については数値目標を設ける方向になっているので、本計画でも数値目標を出していく形になった。

委員

若者対象の項目は年齢層が高いのでどうするのかと思った。

事務局

年齢層を 39 歳までとして幅広くアンケートを取っていく。今回のニーズ調査では若者は含まれなかったもので、途中で別に調査を実施した。次回は若者も含めてニーズ調査を実施する。

委員長

16～39 歳調査では、回収数が 200 人で回収率は 10%だった。

事務局

回収率の向上はなかなか難しい。今回、パブリックコメントに意見を提出してくれた子どもは今後もこのようなことがあれば続けて参加してくれると思うが、まだ先のことになる。

職務代理

計画案 47 ページの公民館での「出前なかまルーム」の開催というのは、具体的にはどのようなイメージなのか。

事務局

公民館の部屋を借り、そこに青少年教育相談センターの職員が出向いて、なかまルームとして、こどもたちが過ごせるものである。

職務代理

アミューあつぎの5・6階のオープンスペースで勉強しているような感じか。厚木南公民館をつくったとき、地域の人と話して、誰でも来て勉強できる部屋をつくったが、できあがったらオープンなものではなく管理の問題で部屋になった。アミューあつぎの場合はオープンで事務員もいるが、公民館に來なさいと言っても管理上の問題が出てくる。そこをきちんとしないと、こどもは勝手に遊ぶだけになる。管理となると公民館の職員の問題もある。是非やってもらいたいと思うが、そのところをきちんとしないと、児童館とはどう違うのかということになる。

委員

児童館については、別紙 298 番への回答には0～18歳の児童・生徒が自由に遊べる場所と書いてあるが、イメージ的には中学生はぱらぱらくる程度で、高校生というイメージはほとんどない。児童館という名前だとメインは未就学児や小学生のイメージなので、高校生まで対象であることは知らなかったのが驚いた。せっかく公民館や児童館が多数あるので、住み分けをうまくすると活用できるのではないか。児童館には高校生のイメージはないので、PRしてはどうか。こどもまんなか社会という言葉自体も世間では知られていないので、そういうところから啓発していかなければならないのではないか。厚木市の広報紙はとても上手につくってあり、上手に活用してこのようなことをしていると具体的に示していないと、不登校のこともヤングケアラーのことも他人事だと思われる。市の広報紙では、具体的に人が出てきてこのようなことをやっていると紹介しており、身近に感じるので活用してほしい。

職務代理

児童館という名称を使うことは決まっているのだと思うが、補助金などが関係しているのか。

事務局

児童館にもいろいろ種類があるが、厚木市の児童館はその他の児童館に当たり、補助金などは交付されていない。いろいろな形態があるが、設置条例でも何々児童館という名称になっている。

職務代理

国から補助金をもらうためには名前が大事で、そのような名称を使わなければならなかったということがある。補助金の関係ではないのであれば、違うネーミングにしたほうが使いやすいのではないか。

委員

児童は小学生、中学生は生徒となっている。

委員

児童館は午後5時で終わるので、中学生は学校が終わってから使える時間が少ない。土日くらいではないか。

事務局

児童館で育ったこどもが、高校生になっても、児童館指導員に会いに集まったり、テスト勉強で利用したりといったケースは稀にある。

委員

計画案 70 ページの数値目標に、地域における子育て環境や支援への満足度の割合があるが、満足していないから低いのか、知らないから低いのかは若干気になるところではある。広報することで上がる部分も大きいのではないか。別紙 11～12 ページでは、こどもが学校生活で体験できるものがほしいという意見が結構あるが、こちらについても市の広報に力を入れていただいて、こういうことをするという記事があったりすると良いのではないか。

委員

学校で使っている G I G A スクール端末にそのような募集を出せば良いのではないか。こどもは広報を見ないので、公民館だよりなどで募集をかけても、親しか見ない。こどもに自主的に見てほしいのであれば、みんなに配られている G I G A スクール端末をうまく使って、今月はこのようなものがあると見ることができるようにすれば良いのではないか。

職務代理

何年か前までは、こども広報というものがあった。広報課が出していて、内容が全てこどものことだった。

委員

タウンニュースがこども用のものを出していた。自分の学校が出ているとこどもは見る。紙面だと時間がかかるが、G I G A スクール端末はこどもが普通に使っているのもので、市の広報のように携帯などで見られるようにすれば、こどもは見るのではないか。

委員長

新聞を取っていない家庭も多いので、こどもは紙面のものを見る機会があまりないと聞いている。G I G A スクール端末を使う部署はどこが考えられるのか。

事務局

教育委員会が管理しているが、この場所に載せてほしいと考えても簡単にできるかどうかは微妙である。今回のアンケートやパブリックコメントも細かな調整が必要だった。G I G A スクール端末は授業で勉強のために使っているものであるが、こどもの意見を聞くことは各課の事業で多くあり、その都度お願いしてアンケートや掲載依頼なども多い。学校の先生も忙しく、教育委員会で整理を

始めているところで、それほど簡単ではない。

委員

そういえば、いろいろな課からいろいろなお知らせが来ていた。それをそれぞれの課がG I G Aスクール端末に移行すると大変かもしれない。

事務局

校長先生が理解していても、担任の先生には説明する必要があるので、載せて終わりではない。それならば紙を配って保護者に届けたほうが見てもらえるということもある。ただ、教育委員会では、保護者への通知方法も電子的なものを検討しているようであり、情報を届けるツールももう少しうまくやれるようになっていくと思う。

委員

アンケートのような調査では少し大変かもしれないが、募集や広告などであればそれで終わりなので、こどもが気になれば見るのではないかな。扱いが異なると思うので、是非前向きに検討していただきたい。時代は変わってきており、今はG I G Aスクール端末のほうが楽になっている。地域の行事の案内も、チラシも配るがG I G Aスクール端末でも流してもらっている。

事務局

取り入れたい学校は積極的にそのようなやり方を進めているところだと思うので、これからいろいろ進むと思う。

委員長

掲載については、校長先生ごとに判断しているのか。

事務局

その地域の行事であれば、校長先生が載せる判断をしていると思われる。

委員

G I G Aスクール端末はかなり進んできたが、学校間格差はまだ少しあるように思う。多く使っている学校と普通に使っている学校がある。

委員長

有効に使えると良いが、そのあたりも今後の課題ではないか。教育関係だとどうしても情報モラルが頭にある。変なところに行かないかと考えて、切っていくところはある。そのあたりをうまくできると良い。

委員

計画案4ページの年少人口というのは0～14歳だと思うが、いくつからいくつまでなのか知らない人もいるのではないかな。

事務局

説明文には15歳未満と書かれているが、記載方法を工夫したい。

4 その他

(1) 令和7年度特定教育・保育施設等の利用定員について
事務局から資料2に基づき説明。

(2) 令和7年度のこども関連事業等について
事務局から参考資料に基づき説明。

【質疑等】

委員

児童館の建て替えについては、計画的に進めているのか。

事務局

公共施設の建て替えについては、最適化基本計画と個別施設計画に基づき、何年度にどこを建て替えるのかということがある程度決まっている。三田児童館は耐用年数が近づいているので、それらに則って進めている。

5 閉会

職務代理より挨拶。

(以上)